【ドバイ 2019 世界パラ陸上競技選手権大会・第 5 日（11 月 11 日午前）】出場選手コメント

◆男子 1500m　T54　予選

・鈴木　朋樹（トヨタ自動車）

400m予選終了後にコメント

・渡辺　勝（凸版印刷）

ベストの走りはできたが、純粋に練習不足。今大会ではこれまでに、800m と 1500m を 1 本走ったが、ここ数年では確実に一番いい。しっかり上がってきている実感もある。

実際に今日のレースでも、いつもは出ない速度が出せている。調整はうまくいっている（次の 5000m も）自信を持って行きたい。

5000m は決勝で入賞するより、予選通過のほうが難しいと思っているので、しっかりと躊躇せずに、攻めるところは攻めて、積極的なレースをしたい。

・樋口　政幸（プーマジャパン）

スタートでキャッチミスの失敗があったが、レース途中は体もしっかり動いていた。最後は少し後ろ過ぎたなと思ったが、（タイの）ラワッタナ選手が上がるタイミングに合わせられたのはよかった。最後はもう少しスピードが伸びてくれればと思ったが、リオの頃に比べるとキレもスピードも上がっていない。調子自体はうまくいっているが、力不足感は否めない。ただ、今日の走りは今季ではベストだと思う。

（決勝にはベストタイムで拾われ、進出）

良かったです。頑張ります。

◆男子　走り幅跳び（T46/47）

・芦田　創（トヨタ自動車）

全然だめでした。順位は 6 位で、6m85 でしたが、この記録は 1 本目から出していかないと出遅れてしまう。今日は向かい風が強く、力を使って進まないといつものスピードが出せないので、助走のリズム感などが変わり悪い動きになっていた。そういう意味で、助走で頑張ってしまい、踏切にまで意識がいかず、最初の 3 本はエイトに（決勝の８人）に残るのに必死になってしまった。3 本目はめっちゃ焦った。

4 本目、5 本目も何が悪いんだろうとひたすら模索した。なぜ跳べないのか、いじる、より悪くなるという負の連鎖というか。6 本目に入るときに、コーチから、「試合開始だ

と思え」とアドバイスされ、観客に手拍子を求めて、そのリズムで走ればいいと切り替え、ようやく6本目で動きをつかんだ感じだった。6本目の6m85は今季、何回かコンスタントに出している記録。6本目にそういう記録を出したのは弱さ。

・鈴木　雄大(日本体育大学)
昨日の100mの疲れを朝は脚に感じたが、気持ちで負けちゃいけないと思った。初めて世界選手権で7mを跳べる手ごたえがあったので、この冬で7mを目標に取り組みたい。100m準決勝が明日あるので、気持ちをきらさずに頑張りたいです。

（3回目に）自己ベストは出たが、７ｍを目標にしていたので残念。嬉しさはない。調子は良かった。1本目がファウルで、2本目で記録が出ないなか、3本目に「出さないと８に残れないかもという中でベストが出たのはよかった。心掛けたのは、「いつも通り」。

暑い午前中での競技だったので、できるだけ日陰にいたりして身体を大事にできたのがよかった。7m跳ぶには身体が後傾しないことジャンプ力が必要。強化していきたい。

◆女子100m　T11　予選
・高田　千明（ほけんの窓口）
13秒19は自己ベストのタイムだが、追い風参考で残念。スタートはそれほど悪くなかったが、メインのトラックを走ったのは初めてで、硬く手足がバタバタした。

（大森ガイド）
追い風が強く、またトラックが硬いので勝手に足が回ってしまった感じでコントロールが利かない状態で走っていた。そんな中でも13秒19なので、スピード的には問題がないと思っている。

（コメント協力：星野恭子）